

パイオニアのアスパラガス（西日本用）

サイズ揃いと品質はこれが一番！ **ゼンユウガリバー**

- 株の生育が早く、栽培容易な品種。
- 第一分枝の位置が高く、2次芽が少ないため、夏芽の収穫がしやすく、風通しが良い。
- 全雄品種で揃い性が特に良い。
- 排水の良いほ場で抜群の特性を発揮する。
- 立茎後に親茎よりも太めの若茎が出る傾向があるため、立茎の太さは10mm前後で抑える。



春芽でしっかり稼ぎたい方に！ **ゼンユウハヨデル**

(200穴トレイ苗販売のみ)

- 株の生育が特に早い。
- 休眠が浅く萌芽が早い(従来品種より約1週間)、春芽中心型品種。
- 全雄品種で揃い性が良い。
- 節間がやや短い。
- 高温でやや生育が鈍くなる傾向があるため、遮光等の高温対策が必要。
- 定植1年目の7~8月は生育が鈍るが、9月以降は株養成が進む
- 立茎の太さは10mm前後で抑える。
- 茎の食感はやわらかい



産地の要望に応える新しい品種が続々登場！

PA050

- 萌芽が早い。(従来品種と同程度)
- 株の生育が早く、栽培容易な品種。
- 全雄品種で揃い性が良い。
- ガリバーより本数は多く出る傾向あり。

スグデル

- 萌芽が特に早い。(ハヨデルと同程度)
- 株の生育が早く、栽培容易な品種。
- 収量性が高い。
- 雌雄混合品種。

差別化アイテムに！ **満味紫**

- 紫色が鮮やかな濃紫色でヘッドの締まりも良い。
- ポリフェノール（アントシアニン）・ビタミンCが豊富、糖度が高い。
- 栽植密度を上げて反収アップ。
- 加熱調理は切った断面から火を通すと紫色が残る。
- ハウス栽培の紫外線カットフィルム使用の場合や、高夜温・低日照の場合には着色不良となるので注意。
- 雌雄混合品種。



アスパラガス栽培のポイント

① 九州のアスパラガス栽培

- 雨よけによる茎枯病対策のため、ハウス立茎栽培が基本。
- 立茎栽培→収穫時期の延長→収量の増加→10aあたり3t以上の収穫が目標。
- 東日本より温暖で株の生育が早いいため、収穫量・収穫期間が長い。
- 東日本より過酷な夏場の高温条件（地温30度前後）により、高温障害による病害虫・異形茎の発生。
- 台風対策のため、東日本よりハウスの高さが低く、ピンチの高さも低い。（110～120cm）
- 水はけの悪い産地では、梅雨など大雨による湿害で根傷みが起きやすい。
- 特に7月梅雨明け以降、高温・乾燥によって光合成量＜蒸発散量となり、株が消耗して若茎が細くなる傾向がある。
- さらに堆肥の大量投入等による酸性条件が重なるとカルシウムの吸収が阻害されて、タケノコや扁平などの異形茎が発生しやすい。

② 雌雄混合品種と全雄品種の違い

- 雄株は本数が多いがやや細い。
- 雌株は本数が少ないが太め。実がつくので生育が鈍る。こぼれ種の雑草化。
- 高温期は特に雌株が暴れやすく、異形茎（たけのこ・爆裂）の発生率が高い。
- 本来は雌雄で立茎太さは異なる。

③ 産地への提案

- ゼンユウハヨデル・スグデル→PA050→ゼンユウガリバーと品種の使い分けによって、ハウスごとに管理・収穫時期をずらして作業量分散・収入の安定化を図る。
- アスパラガスは水はけがとても重要なので、定植前に土壌改良等を必ず行う。
- 土壌の酸性化は生理障害の原因となるので、土壌分析を定期的に行い、カルシウム等を施用する。
- ハウス上部の風通しも重要だが、うね間の風通しはより重要なので、十分な条間の確保または立茎後にヘッジトリマーによる刈込みを行う。
- 点滴灌水導入で少量多灌水による高温対策・灌水作業の簡便化、液肥による生育管理を行う。
- 夏期の高温対策として、フルオープンによる換気や内張り遮光ネットを設置して朝に開けて夕方に閉めるなど、日照量は確保するが地温の上昇を抑制する。
- 秋期の亜リン酸資材(弊社PSダッシュMEネオ等)の施用により養分転流を促進させて、翌年の春芽の収量UPを狙う。（平均気温15℃以下、最低気温10℃以下となる1か月前からの施用が効果的）
- 冬期の灌水（特に夕方）による養分転流の促進・貯蔵根重量の増加。

～ より良いアスパラガス栽培を目指して ～

パイオニアエコサイエンス株式会社

園芸種子部 西日本事業所